

## 静岡県東伊豆町 ホテル大東館



### 1. 火災の特色

熱川温泉大東館は本館（月光閣）と旧館（山水）が地下道で接続されており、この火災は深夜に山水から発生したもので、当日の宿泊客等26人中24名が焼死する惨事となったものである。「山水」は昭和初期に建てられた木造建築物で、本館が満室の時に補充的に使用されていた。

「山水」には自動火災報知設備が設置され、本館の受信盤で集中して管理されるシステムとなっていたが、非火災報が多発するという理由でベル（主・地区共）が切られていたため、火災の発生に気づくのが遅れたものである。

### 2. 出火日時等

(1) 出火日時

昭和61年2月11日(火)1時55分頃

(2) 覚知時間

昭和61年2月11日(火)2時11分

(3) 鎮火時間

昭和61年2月11日(火)6時50分

### 3. 火元の概要

(1) 所在地

静岡県賀茂郡東伊豆町980-1

(2) 火元建物等の名称

ホテル大東館旧館「山水」

(3) 火元建物の構造等

① 建築年月日

昭和14年8月

② 増改築の状況

昭和47年頃にかけて数回増築を繰り返している。

③ 建物用途

ホテル（5項イ）

④ 構造

木造3階建

⑤ 面積

建築面積：266.0㎡

延べ面積：788.00㎡

⑥ 収容人員等

29名

⑦ 出火時の山水の在館者等

ア 従業員 1名

イ 宿泊者 25名

⑧ 建築物階層別用途及び面積

階	面積	用途
3	256.0㎡	客室
2	266.0㎡	客室
1	266.0㎡	ロビー・宴会場
計	788.0㎡	

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備

消火器、屋内消火栓設備

② 警報設備

自動火災報知設備、漏電火災警報器

③ 避難設備

誘導灯

④ 消火活動上必要な施設

なし

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

「山水」は収容人員30人未満ということで、本館とあわせて防火管理されていた。

② 消防計画

昭和58年6月1日 本館の計画届出

③ 避難訓練の実施状況

ホテル全体では1年に2回の避難訓練は実施されていたが、「山水」での訓練は実施されていない。

4. 気象状況

(1) 天候

晴れ

(2) 風位、風速

風位：北北東、風速：6.1m/s

(3) 気温、湿度

気温：3.1℃、湿度：47.9%

(4) 気象注意報等

なし

5. 出火原因

(1) 発火源

ガスコンロ

(2) 経過

ガスコンロを置いている部分の壁（表面ステンレス）の内部の木材が長期にわたり加熱され炭化していた。

(3) 着火物

炭化していた側壁の木材に低温着火したもの。

6. 損害状況

(1) 人的被害状況

① 死者

24名（宿泊客23名、従業員1名）

② 負傷者

なし

(2) 物的損害状況

① 火元建物

ア 焼損程度 全焼

イ 焼損面積 「山水」延べ788.0㎡

ウ 損害額 13,030,300円

② 類焼建物

ア 焼損程度 「グランドホテル」「従業員寮」他3棟及び車両6台

イ 焼損面積 673.0㎡

ウ 損害額 91,494,500円（他に車両2,590,200円）

## 7. 火災の経過

### (1) 出火場所の状況

出火場所はガスコンロを置いているパントリー付近である。コンロは宿泊客がある場合は、毎日30分程度使用されており、前日も使用されていた。

### (2) 出火に至るまでの状況

前日もコンロは使用されており、長期低温加熱により炭化した内部木材に、前日のガスコンロ使用が引き金となって出火に至ったと思われる。

### (3) 火災発見の経緯

従業員による火災発見

夜間勤務員の2名が勤務しており、2時6分頃物音に気付き確認に行き発見している。

### (4) 消防機関への通報状況

夜間勤務員Aは、火災に気付き、本館フロントに戻り119番通報を試みたが、慌ててできなかった。最初の消防機関への通報は、付近の店舗の従業員がおこなっている。

### (5) 初期消火の状況

従業員等は火災に気付き消火器による初期消火を試みたが、火災はもはや天井の高さまで達しており消火器で消火できる段階を越えていた。

### (6) 火災拡大の状況

「山水」は木造の建築物であり、1階パントリーで成長した火は窓等を経由して上階へ急速に延焼した。

### (7) 避難の状況

3階801号室に宿泊していたC（男27才）D（女30才）夫婦は火災に気付き、窓から隣接の屋根に渡って避難した。

### (8) 自衛消防隊の活動状況

活動なし。

### (9) 死者の状況

3階の801号室から避難した夫婦以外の宿泊者は部屋内で就寝中に避難することなく焼死したと思われる。

## 8. 消防機関の活動状況

### (1) 出動隊等

#### ① 出動車両

常備 3台、非常備 17台

#### ② 出動人員

常備 23名、非常備 380名

### (2) 消防機関の消火、救助活動の状況

消防機関への通報が遅れたため、消防隊到着時火災は最盛期であり、救助活動のための屋内

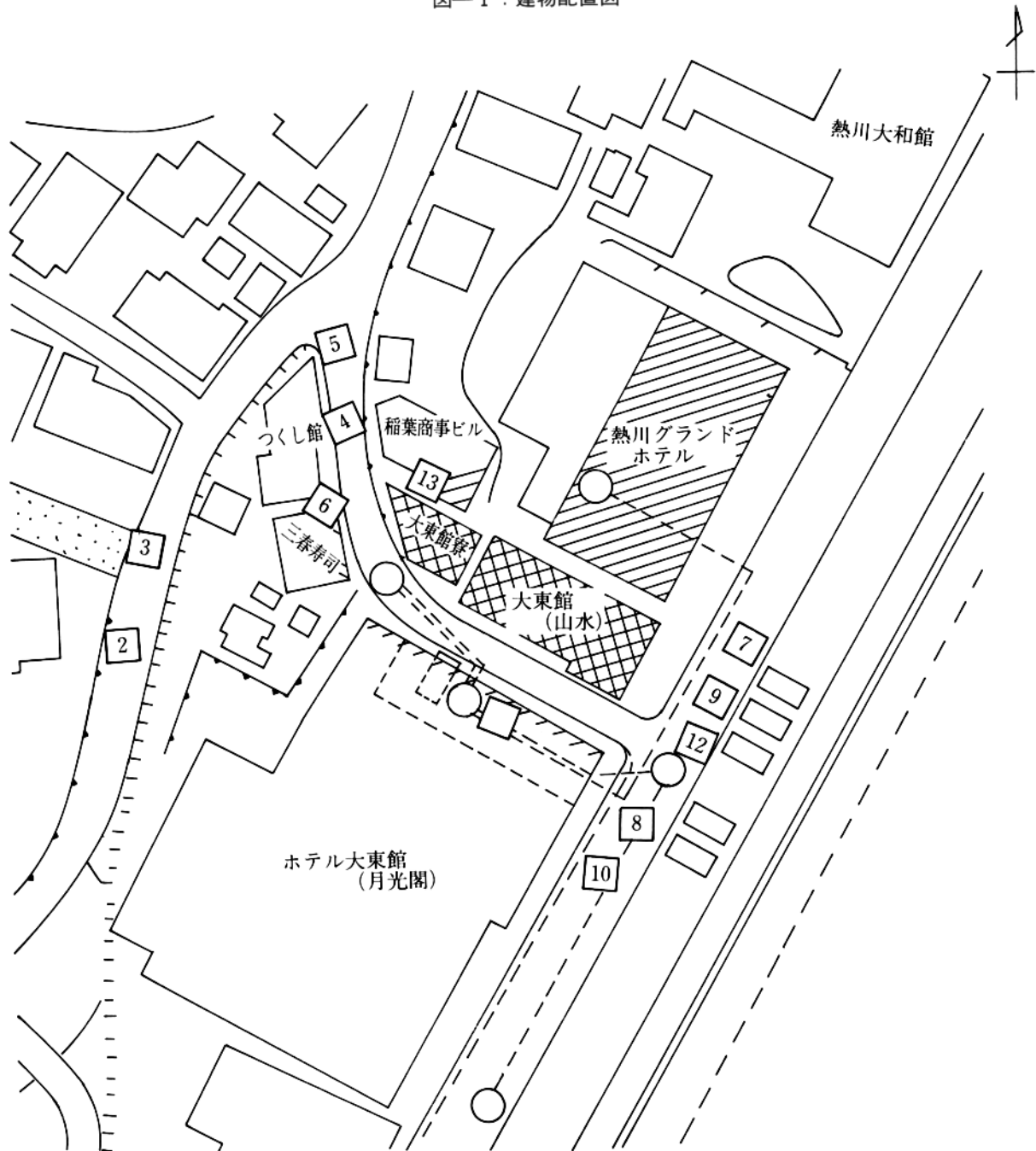
進入は不可能な状態であり、消防隊は火勢鎮圧、隣接建物の延焼の阻止にあたった。

## 9. 問題点・教訓

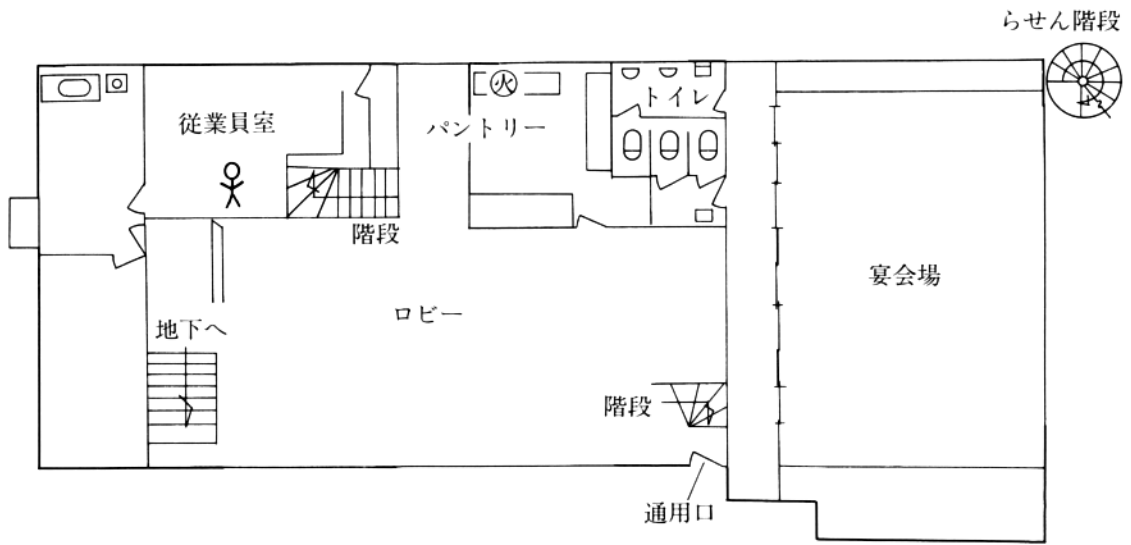
- (1) 自動火災報知設備が誤発報するという理由で主ベル、地区ベルが切断されていたこと。
- (2) 最大収容400名を越えるホテルでありながら、夜間の防火管理体制が2名しかいなく手薄であったこと。
- (3) 火災に気付いた従業員が慌てて119番通報をしたが、的確にできず消防隊の到着が遅れたこと。
- (4) 木造3階建であったため、火災が急速に成長し、ほとんどの客が避難できなかった。

10. 資料

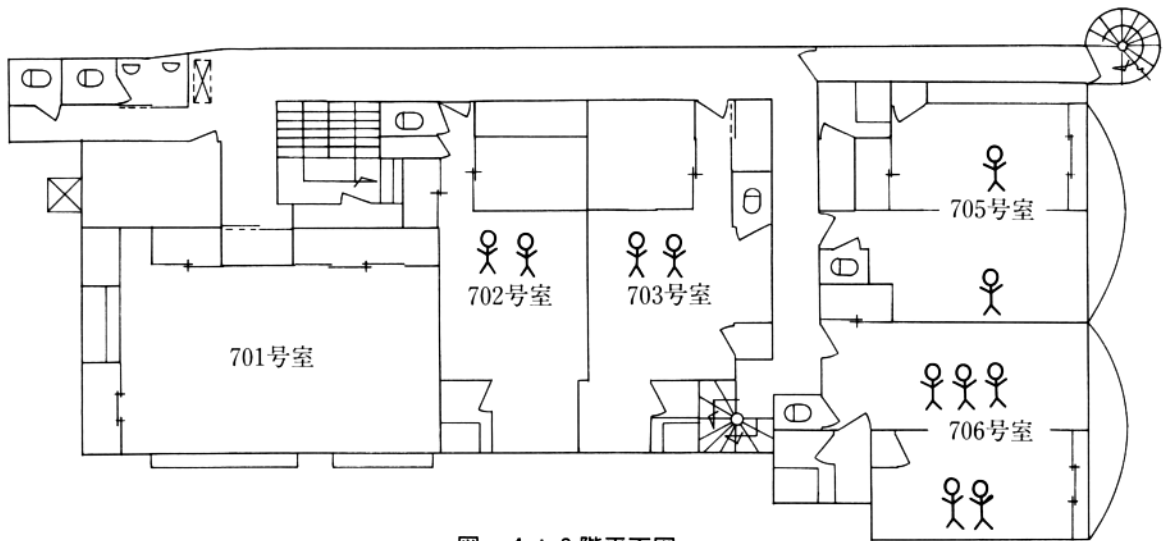
図-1：建物配置図



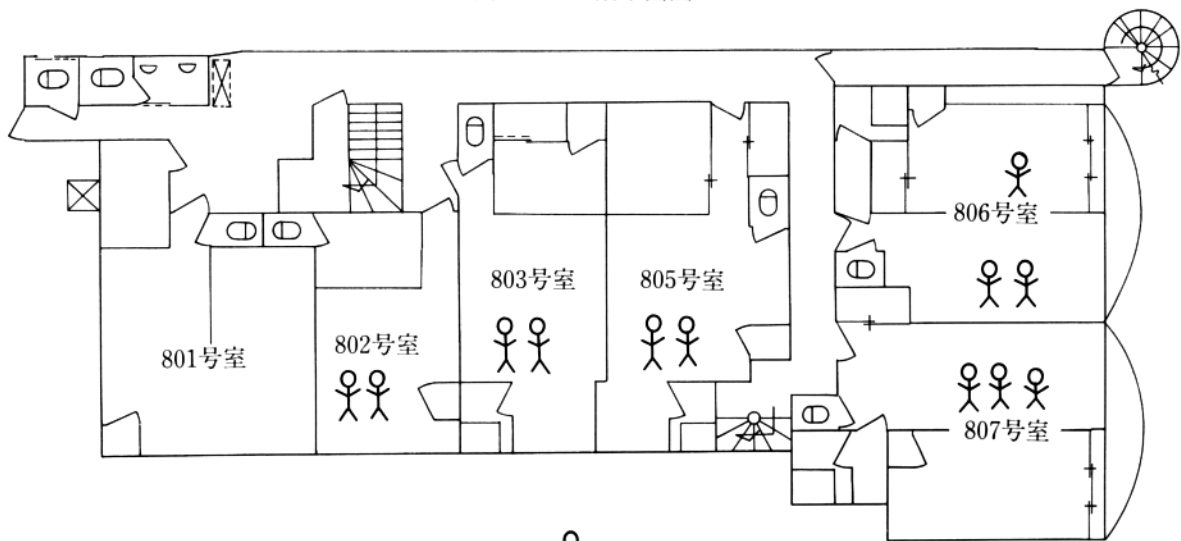
図一 2 : 1 階平面図



図一 3 : 2 階平面図



図一 4 : 3 階平面図



☺ は死者の位置